

# コーディネーターだよ!

令和4年11月30日

No. 3

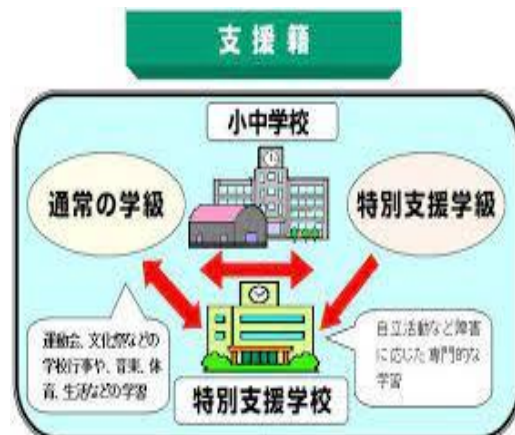


2学期に入り、今年度の支援籍学習も地域の学校で概ね順調に取り組んでいるところです。いつも御協力ありがとうございます。今回は、支援籍学習についてお知らせします。

## 支援籍学習について

### 【支援籍学習とは】

障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶ機会の拡大を図るとともに、障害のある子どもに、より適切な教育的支援を行うため、在籍する学校又は学級以外に籍を置き、必要な学習活動を行う仕組みです。



### 【支援籍学習の大きなねらい】

#### ①「心のバリアフリー」を育む教育の推進

障害のない子が障害のある子と一緒に学ぶことにより、障害者に対する差別や偏見といった意識上の障壁を取り除く教育を推進します。

#### ②「社会で自立できる自信と力」を育む教育の推進

発達障害なども含め、障害のある子どもたちに専門的な学習支援を行います。障害のある子とない子が一緒に学ぶことにより「社会で自立する自信」を育む教育を推進します。



今年度から「心のバリアフリー」を育むが1つ目のねらいになりました！よりインクルーシブ教育システムを構築していくために、多様性を認める教育が推進されていることが現れています！

※令和4年度支援籍実践研究協議会 行政説明資料（県教育局特別支援教育課）より

### 【本校の支援籍学習のねらい】

県のねらいに基づき、本校では以下のねらいのもと取り組んでいます。

- ①障害のある児童生徒に「社会で自立できる自信と力」を育む。
- ②居住地との関係を深める。

### 【今年度の支援籍取得状況】今年度、以下の学校で支援籍学習を実施しています。

学部・学年	支援籍校名
小学部 2年	久喜市立栗橋西小学校
小学部 3年	久喜市立久喜東小学校
小学部 3年	久喜市立久喜東小学校
小学部 3年	白岡市立南小学校
小学部 4年	久喜市立栗橋小学校
小学部 4年	久喜市立青毛小学校
小学部 4年	久喜市立久喜小学校
小学部 5年	久喜市立栗橋西小学校
小学部 6年	加須市立元和小学校

学部・学年	支援籍校名
中学部 1年	白岡市立菁莪中学校
中学部 3年	白岡市立菁莪中学校

小学部：9名（うち新規4名）

中学部：2名（うち新規1名）





# 支援籍学習 ほっこりエピソード



支援籍学習は、本校のねらいをふまえて、個々の実態に応じた個別のねらいを設定して実施しています。支援籍学習を通して「心のバリアフリー」も育んでいます。実施する中で出会った心温まるエピソードを一部紹介します。

## 相手やその状況を理解しようとする姿

### 相手の立場に立って思いやる姿

手すりのない階段を教員と手をつないで上っていると、後ろから「バランスとるのが難しいもんね」の声。本人が背負っていたリュックを支えながら一緒に上ってくれました。

(音楽の楽器アンサンブルで)スネアドラムが少し高くて叩きにくそうな様子を見て「椅子に置いた方がやりやすいかも」「あの椅子がいいんじゃない?」と、どうしたらやりやすくなるかアイデアを出し合ってくれました。

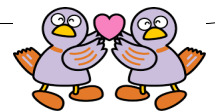
初めての教室に緊張しながら教室の掲示などキョロキョロ見ていると、隣にやってきて一緒にキョロキョロ。本人が指さした方向を見てくれて「○○ってこと?」と何を伝えたいのか理解しようとしてくれました。

(体育のバドミントンでシャトルがラケットに当たるまで一生懸命サーブを打ったり、返ってきたシャトルが打ち返せなかった様子を見て)「サーブを打つのに全力でそれが自分の役割だと思ったんじゃないかな」と本校生徒の状況を理解してくれていました。

### 相手の変化や成長に気づける姿

(久しぶりの再会に)「すごい背が伸びたね」と変化に気づいてくれたり、(2回目の交流時に)「何かこの前より色々お話しているね」教員「この前はちょっと緊張していたのかもしれないね」「そっか。初めての場所だったもんね、確かに初めてだと俺も緊張するわ。今日は少し慣れたんだね、よかった」と本人を理解しながら共感してくれていました。

## 支援籍実践研究協議会について



埼玉県では、毎年各市町村教育委員会と県内特別支援学校を対象に「支援籍実践研究協議会」を開催し、支援籍学習の実施及び在り方について、研究協議を行い、共通理解を図っています。今年度は、10月4日(火)オンラインでの開催となりましたが、県特別支援教育課より行政説明と特別支援学校による実践発表がありました。

行政説明では、共生社会の形成に向けた特別支援教育推進に向け、支援籍学習は重要な役割を担う取り組みであり、より一層の活用が図られるよう市町村教育委員会と特別支援学校との連携を密にしながら取り組む必要があることの説明がありました。実践発表では、狭山特別支援学校から効果的で円滑な実施に向けた取り組みのために、教員間の共通理解をどう深めていくべきか、現在校内で工夫されていることについての発表がありました。他校の実践等も参考にしたり、校内や地域の状況も踏まえながらこういった工夫をすると支援籍学習をより充実したものにすることができると継続的に検討していく必要があると感じました。

本校においても現在、来年度からの支援籍学習がより充実したものとなるよう「支援籍学習ガイドライン」の再検討を行っています。12月の保護者会にて地域連携部より説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

